

先端技術・医療・バイオ

「足にできた傷がなかなか治らない」「他の病院で足を切断するしかないと言われた」……。こうした悩みを抱えた患者が他県からも受診に訪れるのが大分岡病院(大分

医療・介護 最前線リポート

市)の「創傷ケアセンター」だ。国内の糖尿病の患者数は1000万人、高血圧は3000万人を超すと推定されている。これらの病気で動脈硬化が進む

大分岡病院(大分県)



古川雅英部長

《施設概要》

- ▽所在地 大分市西鶴崎3の7の11
- ▽電話番号 097・522・3131
- ▽設立 1954年
- ▽病床数 231床
- ▽院長 葉玉 哲生

と、全身の血管が目詰まりしやすくなり、脳梗塞や心筋梗塞の原因になる。足に傷を負うと、血行が悪いために治りにくく、悪化して壊疽(えそ)になる恐れもある。

日本では脳血管や心臓血管の専門医は数多いのに対し、足の血管の閉塞による難治性創傷には光が当たらず、治療できる医療機関は少ない。早期に適切な治療を受けられないまま、下肢の切断に至る患者が多いともいわれる。

大分岡病院が創傷ケアセンターを設置したのは2004年。岡敬二理事長が下肢救済の先進国である米国の治療現場を視察したのがきっかけだ。米国の医療コンサルティング会社、ミレニア・ウインド・マネジメントと提携し、治療法の助言を得ている。

チーム医療で下肢救済



大分県外からも多数の患者が受診に来る

「チーム医療」にある。形成外科医を中心に循環器科医や血管外科医、専門看護師、理学療法士らが協力して治療する。

同センターの古川雅英部長は「他の病院で『切り断すしかない』と言われた患者の足の血管と傷を治し、歩いて帰れるようになって治療方針を決定。塞がりにくい」と話す。センター創設後の5年間に治療した重症下肢虚血の患者のうち、下肢の切断を回避できた比率は88%に達する。救急車が年間2,000台来る救急病院でもあり、「重症患者が来れば、すぐ他の医師に応援を頼む」(同)。

同病院内には「血管外科」の3分野の異なる医師が協力し合うチーム医療にもなじみやすかったようだ。同病院がチーム医療の体制をとっている分野にはこのほか、循環器科医と心臓血管外科医が連携する「心血管センター」や、形成外科医と口腔(こうくわ)外科医が協力する「マキシロフェイスヤルユニット」(顎顔面治療部)がある。同ユニットでは嚙(か)み合わせに問題のある顎変形症を歯科矯正と外科手術を組み合わせるなど「顎」「口」「顔面」を複数の専門医が総合的に治療しているところに特徴がある。

「循環器科」(同)。

谷川健三